

グループ経営5か年ビジョンの策定について

中国電力グループ(エネルギーグループ)は、このたび、平成20年度から平成24年度までの5年間を対象とする『グループ経営5か年ビジョン』を策定しました。

エネルギーグループは、これまで、電力自由化の進展による競争の激化や原子力開発投資の本格化に対応するため、「競争力の強化」と「財務体質の改善」を経営課題の中心としグループをあげて取り組んできました。

こうした中、電気事業を巡る足もとの経営環境は大きく変化しており、原油や石炭などの化石燃料の価格高騰や、「安全」「安心」「信頼」への社会的な要請の高まりなどにより、エネルギーセキュリティの確保や電力の安定供給がこれまで以上に大きな課題となっています。また、地球環境問題が深刻化し世界的に喫緊の課題となっています。

本ビジョンは、このような環境変化やこれまでの取り組みの評価、中長期的なグループの経営課題を踏まえ、新たな経営の方向性を明確化してグループ全体で共有し着実に実践していくために策定したものです。

取り組み期間は、グループにとって大きな節目となる島根原子力発電所3号機の本格的な運転開始時期をターゲットとした5年間とし、新たに定めた「目指すべき企業グループ像」の実現に向け、「あらゆる業務運営において、コンプライアンスを最優先に進める」ことを基本に、競争力や財務体質を損なわないよう留意しながら、「将来の安定供給や競争力・業務品質の向上を支える設備面や人材面での経営基盤強化」に重点的に取り組んでまいります。

以上

【添付資料】

別紙:  [グループ経営5か年ビジョン\[PDF:200KB\]](#)

＜グループ経営5カ年ビジョン＞

目指すべき企業グループ像

エネルギーグループは

人と技術の力で新たな価値を『創造』し、継続的に『成長』していくことで、皆さまから『信頼』され、社会の発展に貢献する

- ◆ 「信頼」されるエネルギーグループは…
「コンプライアンス最優先」を業務運営の基本とした公正で透明性の高い事業活動を通じて、環境にやさしく、高品質で経済性に優れた商品・サービスを安定的にお届けすることで、社会的な要請に応える。
- ◆ 「創造」していくエネルギーグループは…
柔軟な発想で積極果敢に挑戦する社員の力と、グループが培う高い技術力・専門能力を最大限発揮し、お客さまに満足していただける新しい価値を生み出す。
- ◆ 「成長」し続けるエネルギーグループは…
お客さまの満足を獲得することで、成長の源となる利益を継続的に創出する。

目指すべき企業グループ像の実現に向けた行動計画

目指すべき企業グループ像の実現に向け、以下の行動計画を掲げ、グループの全社員が絶えず変革し挑戦しながら着実に実践する。

I. 今後5年間（平成20～24年度）の位置付け

事業の基盤である信頼と、価値創造の源泉となる
人材基盤・設備基盤を確固たるものとする期間

II. コンセプト

「成長」に向けた「信頼」「創造」の基盤づくり

Ⅲ. 行動計画

1. 信頼されるエネルギーグループを目指して

コンプライアンス最優先の業務運営に着実に取り組む

不適切事案の教訓を風化させず、二度と繰り返さないという強い決意に立ち、再発防止対策を着実に実行し、役員の率先垂範のもとグループをあげてコンプライアンス最優先の経営を推進する。

- 自らの態度や行動を常に社会的良識と照らし合わせながら日々の業務に取り組み、お客さまや地域の皆さまとの接点を信頼獲得のための重要な機会とする。
- 業務に疑問を感じたときには必ずルールを確認し、問題を職場や組織間で率直に話し合い、不適切な取扱いがある場合には先送りせず積極的に正す。
- 第三者視点の活用や監査機能の充実により経営の透明性・健全性を高めるとともに、お客さまや地域の皆さまの立場に立った積極的な情報公開を進め説明責任を果たし、安心感を高める。

エネルギーサービスを中心にグループとしての変わらぬ使命を果たす

- エネルギーセキュリティの確保、燃料価格の高騰下での経済性確保、地球環境問題の同時解決に向け、その切り札となる原子力開発を経営の最重要課題と位置付け、島根3号機の建設、上関地点の開発をグループの総力をあげて実現する。
- 発電・ネットワーク設備の安全確保・信頼度維持が地域社会の安心の基盤となることから、中長期的な設備展望に立った設備形成・保全を、グループが持つ技術と総合力によって計画的かつ着実に進め、信頼に応える。
- 地球温暖化防止のための温室効果ガス排出量の削減に向け、原子力開発に傾注しつつ、LNG利用の拡大や新エネルギー導入の促進、石炭高度利用技術の開発等にも積極的に取り組み、よりクリーンで持続的発展が可能な社会づくりに寄与する。
- 良質で安心できる商品・サービスを納得いただける価格で提供することをベースに、常にお客さまの立場に立ち、ご要望に「的確に」「速く」対応することでお客さまの心を掴み、信頼を得る。

2. 創造していくエネルギーグループを目指して

自ら考え行動できる人材を育て、個の力を結集し組織力を高める

- 社員一人ひとりが自ら研鑽に励み知識・技術・技能を高め、上長等の適切な課題の設定や実効性のある指導・支援のもと、柔軟な思考と行動力をもって成果をあげることで、仕事を通じた達成感や充実感を糧に成長していく。
- 中国電力、グループ企業、協力会社の役割分担を明確にしたうえで、社員の実務経験機会の確保や実践的かつ体系的な教育・訓練の的確な実施等により、グループ内で保有すべき技術力や専門能力を向上させるとともに着実に継承していく。
- 社員の挑戦する意欲や技術力・専門能力向上へのモチベーション高揚に資する効果的な人事労務施策等を展開する。

3. 成長し続けるエネルギーグループを目指して

成長の源である利益の基盤をグループ一体となって強化する

- グループ一体となったお客さまニーズの把握とグループ経営資源の最大限の活用により、市場競争力が高く魅力のある商品・サービスを開発・提供するとともに、トータルソリューション提案活動を更に充実させ、お客さま満足の獲得を通じて売上・利益を拡大する。
- 燃料・資機材の調達力強化やグループ一体での効率化・業務運営の改善に努めるとともに、グループ各社の事業領域や役割を明確化したうえで事業の選択と集中を進め、各社の特性・特長を活かした競争力強化、グループとしての総合力向上を図る。
- グループの総力をもって将来に向けた経営基盤を強化するとともに、数値目標を確実に達成し、株主・投資家の皆さまの期待にお応えする。

数値目標

| | 項目 | 目標値 | 設定の考え方 |
|-----|--|---|---|
| 収益性 | 経常利益（連結） | （平成 20～24 年度平均） 600 億円以上/年 | 必要な設備対策等を 着実にを行いながら、 最低限確保しておく べきレベルとして設 定。 |
| 健全性 | 有利子負債残高（連結） | （平成 24 年度末） 1.6 兆円程度 | 設備基盤の強化を進 めつつ財務体質を悪 化させない観点から 設定。 |
| 効率性 | 〈資本効率〉 ROE（単独） [自己資本当期純利益率] | （平成 24 年度） 5%以上 | 株主・投資家の皆さ まへのご期待にお応 えするという姿勢を 明確にする観点から 設定。 |
| | 〈資産効率〉 設備生産性（単独） [固定資産 1 億円あたりの 販売電力量] | （平成 24 年度） 360 万 kWh/億円 程度 | 設備基盤の強化を効 率的に進めるための チェック指標として 設定。 |
| 成長性 | 〈電気事業〉 電力需要開拓量 | （平成 20～24 年度合計） 35 億 kWh 以上 | 更なる需要の掘り起 こしを目指す観点か ら設定。 |
| | 〈電気事業以外〉 グループ売上高 ^{※1} グループ外営業利益 ^{※2} | （平成 20～24 年度合計） 6,000 億円以上 220 億円以上 | グループをあげた成 長への取り組み強化 を目指す観点から設 定。 |

※1 売上高は連結売上高と電気事業の売上高との差。

※2 営業利益は連結営業利益と電気事業の営業利益との差から連結子会社のグループ内取引による営業利益を控除した値。

以上